

厚生福祉

 時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
 昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
 毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
 購読料金 税抜月額4,100円
 本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。
 ©時事通信社2019
 ◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
 kousei-dokusha@jiji.com

目次

特集	2
難病をめぐる医療・リハビリ・福祉⑩～あ る患者と家族の体験を通して～ 都道府県の脳卒中対策を見る	
中央省庁ニュース	8
「断らない相談支援」整備＝中高年引きこ もりで中間報告案／農業版ジョブコーチ を新設＝農福連携で支援、来年度にも ほか	
進言 (一般社団法人ウインワークス代表理 事)	9
特集	10
JCLPがシンポジウム開催 需要側に完全再エネ化の動き 調達網へも影響、広がる「脱炭素」	
ニュース	14
「エボラ」輸入、地元容認 東京・武蔵村山の「BSL4」施設	
インタビュールーム	15
トピックス	16
異例の降格人事 対照的な老健局と保険局	
私たちの工夫	17
ニュースフラッシュ	18
休日子どもクラブを実施／DV被害者の 戸籍、閲覧制限 ほか	

造ったり、壊したり

令和になって、私たちの法人が立ち上げられた昭和も遠くなったものと改めて思う。昭和は高齢者介護が措置費で賄われていた時代である。

いわゆる税金で運営していたのだが、規制は意外と緩やかであった。多分、あまり行う人も多くなく、国自体も手探りだったと思う。

その時代に、私たちは将来を思って、職員の働き方や地域を巻き込む取り組みなどさまざまな挑戦をしてきた。その延長戦上で、介護保険の時代になって「壁」を造ったり、壊したりした。

壁を造ったのは個室。国が決めた基準でなければ尊厳を保てないと言われたが、国が決めた個室である必要はないと思い、設計士と知恵を絞って、

社会福祉法人新生活会
 名誉理事 理事長・石原美智子



多床室ではあるが、すべての部屋に窓があり個室化された施設を造った。

壁を壊したのは、人材と財源が少なくなるのを見越して、二つのユニットの壁を取って一つにした。なぜなら、要介護度の高い利用者が多い場合、介護者の負担を少なくするだけでなく、先輩の技術を新人が学ぶためにも、また声を出すことが不可能な利用者に不都合な介護が行われないためにも、見通しをある程度良くすることが必要だと思ったからである。

施設は、建ててしまえば20年、30年と使わなければならぬ。利用する側にも、働く側にも少しでもいいものを造っておかなければならぬ。こ

うした工夫はその後、なぜか許可が出なくなってきたが。

介護保険の時代が長くなるに従い、国が微に入り細にわたってすべてを決め、現場はそれに従うという傾向が強くなった。

そうなれば、制度をつくり指導する行政と、利用者や働く人々の声を反映させながら現場をつくり上げる事業者の関係は、共同作業ではなくなり、事業者は国の政策ばかりを見る習性につき、新しい発想に挑戦する習慣がなくなる。

最近、昭和にはなかった介護現場での訴訟問題が多くなって、何か事故が起こるとすべての責任が現場にあるように報道されるが、責任はすべて現場だけにあるのだろうかかと疑問が湧いてくる。

団塊の世代の介護が迫り来るこれから、現場の介護者を責めているだけでいいのだろうか。